

2例目の食Rループ

イズミヤと連携し構築

（総合リサイクルに取組む安田産業グループの構成企業で、食品残さ飼料化事業を展開する京都有機質資源（京都府長岡京市、安田春社長、☎075・953・6100）

（鳥取市）と連携して鳥取レイクフーム（鳥取市）を製造。同1方2000個の卵を販売していく。

「エコの森京都」は「油音減圧乾燥システム」（天ぷら方式）を採用し、最大126ト/日（24時間稼働）もの処理能力を持つ。製造工程では、まず弁当等の容器包装ごと投入した原料を分別機で異物を除去する。油分を混ぜ合わせ、減圧下で加熱して水分率が3%になるまで脱水。次に油分を圧搾して取り除き、残った固形原料を粉碎して飼料を製造する。



飼料化施設「エコの森京都」

減圧によって水の沸点が

90度Cと低くなるため、水溶性たんぱく質や窒素等を破壊せず、高い栄養価を保ったまま飼料化できる。製造した飼料は「京（みやこ）1号」として2009年にエコフイード認証を取得。大手飼料メーカー等に供給する。現在はコンヒニやスーパー、食品工場等から食品残さを1カ月当たり2000ト強を受け入れているという。

同社統括管理本部・地球環境室の安田義崇氏は「食品リサイクルはCSRや地域貢献として重要な要素だが、一般消費者への浸透が課題となっている。ループの構築や3R活動のPRにとどまらず、例えば食育イベント等を活用して、積極的にコミュニケーションへとアプローチしていきたい」と抱負を語った。

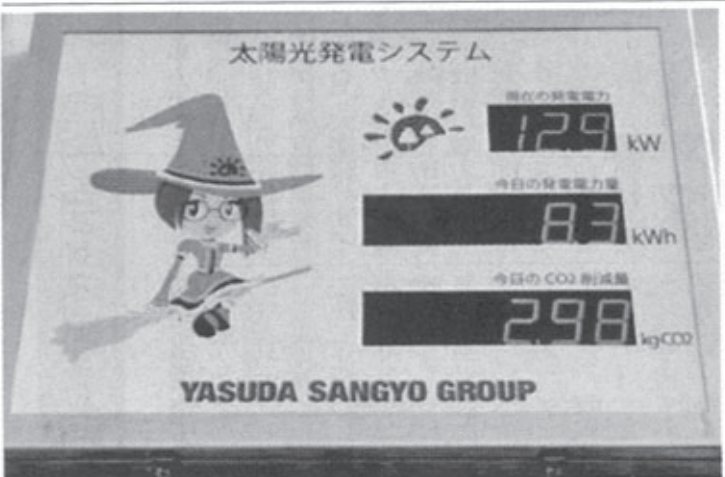
2拠点で太陽光発電

安田産業グループ

年間11万kW時を売電

安田産業グループは3月、木くすりサイクルやRPF製造を中心に事業展開するグループ企業の大剛（京都府八幡市）八幡工場と長岡京工場に、太陽光発電システムを導入し売電事業を開始した。発電能力はそれぞれ50kW、年間11万kW時を発電する。

今回の発電事業では、今回の発電事業では、発電能力をそれぞれ50kW、年間11万kW時を発電する。今回の発電事業では、発電能力をそれぞれ50kW、年間11万kW時を発電する。今回の発電事業では、発電能力をそれぞれ50kW、年間11万kW時を発電する。



発電状況を表示するサインパネル

同社は「環境産業に携わる企業として、再生可能エネルギーの導入を率先して進めた。太陽光発電システムは事業者だけでなく一般家庭にも推奨できるので、工場を訪れた皆さんに勧められるようスタッフ教育も徹底しており、システムの普及に貢献できれば幸いだ」とした。